

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2000. 7

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 195

私のお気に入り・蓮田市黒浜沼周辺

玉井 正晴 (蓮田市)

私の黒浜通いは気が付いたら6年以上立っていました。こんなに長期間継続できたのは自宅から近いのも一つの理由ですが、環境が変化に富んでいるため意外と多種の鳥に出会えるのも飽きない理由だと思います。そこで、全212回の鳥見の記録を表(4ページ)にまとめてみました。6年余で111種も記録しており、長い間には結構予想外の鳥も見ることに驚いています。この数はまだまだ増えると思います。

上沼周辺

黒浜沼での鳥見の中心は何と言っても、上沼周辺です。蓮田駅西口から東埼玉病院行き、新井団地のバス停から細い道を東へ入り、住宅街を抜け、左手の農村センターの前を過ぎると芦原が目飛び込んできます。この一部耕作田を含む芦原(全部休耕田です)、右前方の黒浜沼上沼および正面の屋敷林と小さな雑木林が主な観察場所で、表に載っている大部分の種の鳥を見ることができます。

上沼の水面には、カイツブリ、バン、カルガモ等が1年中おり、冬には数種のカモが姿を見せます。夏になると、コアジサシ、ヨシゴイ等と、定着している鳥達の雛を探すのが楽しみとなります。冬季の芦原はにぎやかで、ホオジロ類、シメ、ツグミ、ウグイスと枚挙のいとまがありません。林に目をむけるとシジュウカラ、メジロだけではなくアカハラ、シロハラ、アカゲラ等も運が良ければ見つかります。忘れてはならないのは上空で、冬季はオオタカ、秋はサシバが輪を描いてくれます。



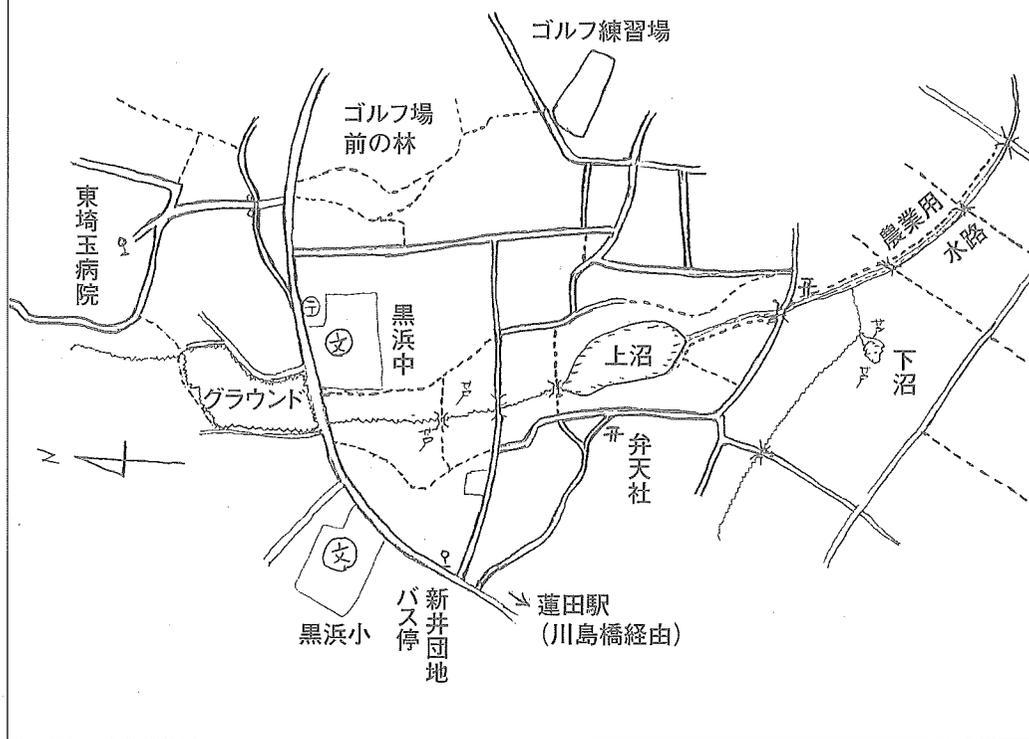
夏はオオヨシキリが賑やかに囀り、カッコウが托卵を狙ってやって来ます。しかし、全体的に暑いだけでなく、鳥の種類が限られており、鳥見人にはつらい季節です。

冬ならここだけで30種程度は見つかります。特に、休耕田の一部を少し掘って水場にした蛭の里でじっと待っていると、いろんな鳥が次々と姿を見せてくれます。のんびりと鳥見をしたい方にはお勧めの場所です。

上沼周辺以外

上沼周辺以外にも、沼の南端の水路沿いに少し行くと広い田んぼに出ます。水路の一番目の橋を渡り右(南)に進んだあたりから前方の田んぼに、春の渡りの季節には100~200羽のムナグロに数羽のシギが混じってやってきます。春から秋にかけて、アマサギ、チュウサギ、冬は北風の中で並んで居る20~30羽のアオサギが楽しめます。さらに南へ進むと元荒川にぶつかります。かなり距離が有るので普段は行きませんが、ここでも沢山の鳥が見ることが出来ます。

蓮田市・黒浜沼周辺バードマップ



上沼の北東に位置する東埼玉病院（通称黒浜療養所）はまだかなりの雑木林が残っていて良い場所ですが、病院内なので探鳥会をやるわけには行きません。でも、1、2名で病院構内であることを忘れて静かに鳥を見ている分には大丈夫でしょう。正門を入れて右に曲り、突き当たりの桜の周囲（病院東部）が一番のポイントで、私はここで昨冬、トラツグミとルリビタキを見えています。

私達の間での通称ゴルフ場前の林は、上沼の東約500mの所に有ります。林の中は木が密集していて鳥が見つかり難いのですが、オオタカはここを囿にしているようです。また、時々ですが珍しい鳥に出会える興味深い場所です。

他にも見所は有るのですが、いずれにしても黒浜沼周辺の鳥見は住宅地に囲まれたポイントを繋いで見て回ると言う感じです。また、途中の農家の庭木には意外に多くの鳥が居て見逃せないポイントになっています。以上述

べた場所全部を徒歩で一度に見て回ることは時間的に出来ませんので、冬季の探鳥会では上沼周辺と上記の内1ヶ所を組み合わせ、春には田んぼのシギ・チを中心に鳥を探しています。

黒浜沼周辺も住宅化の波に今にも飲み込まれそうなのですが、私も入会している「黒浜沼周辺の自然環境を大切にする会」が10年以上もの間自然を守る活動をしています。周辺の自然観察公園化を推進しようと役所に働きかけたり、学童を対象にしたごみ拾い兼自然観察会を通しての啓蒙等々、種々の活動を活発にしています。おかげで以前と比べるとごみが確実に減っています。環境維持にもかなり好影響を及ぼしていると思います。また、上述の「蜚の里」も、少なくなった蜚を増やす目的で休耕田を借りて手入れしている場所です。私のお気に入りの黒浜沼周辺がこれ以上環境破壊されずにいつまでも鳥見を楽しめる自然が残されて居て欲しいと願っています。

黒浜沼野鳥観察記録(1994. 1~2000. 5)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	カイツブリ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	57	セグロカモメ	△	△	△								△
2	ハジロカイツブリ	△										△	58	コアシサン			▲	○	○	▲	△				
3	カワウ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲	○	○	◎	◎	59	シラコバト	△	△		△	△	△		△	△		△
4	ヨシコイ						△	△	△				60	キジバト	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5	ゴイサギ	△	△	△	△	▲	◎	○	○	○	△	△	61	カッコウ			△	○	○	△					
6	アマサギ				△	▲	▲	▲	▲	▲	▲		62	ツツドリ									△		
7	ダイサギ	○	○	▲	▲	▲	▲	○	○	○	◎	○	63	カワセミ	△	△	△	△	△	△		△	▲	△	△
8	チュウサギ				△	▲	○	○	○	○			64	アリスイ	△	△	△								△
9	コサギ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	65	アオゲラ	△										△
10	アオサギ	○	○	◎	○	▲	▲	▲	▲	◎	◎	◎	66	アカゲラ	▲	▲	△							△	△
11	オオハクチョウ	△											67	コゲラ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎
12	コハクチョウ	△											68	ヒバリ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
13	オシドリ	△											69	ツバメ			△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	▲
14	マガモ	○	○	▲	△				△	△	○	○	70	キセキレイ	△	△							△	△	
15	カルガモ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	71	ハクセキレイ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
16	コガモ	◎	◎	◎	◎	▲			○	◎	◎	◎	72	セグロセキレイ	◎	◎	△	△	△	△	△	△	◎	◎	◎
17	ヨシガモ											△	73	ピンズイ	▲	▲	▲								△
18	オカヨシガモ	△	△									△	74	タヒバリ	◎	○	○	▲					△	◎	
19	ヒドリガモ	△	△	△					△	△	△		75	ヒヨドリ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
20	オナガガモ	△	▲						△	△	△	△	76	モズ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
21	ハンビロガモ	▲	○	▲	△				△	▲	▲	▲	77	ルリビタキ	△	△									△
22	ホシハジロ	△	△	△					△	△	△		78	ジョウビタキ	○	◎	△	△					△	◎	
23	キンクロハジロ			△					△	△	△		79	ノビタキ											△
24	スズガモ									△	△		80	トラツグミ			△	△							
25	オオタカ	▲	○	△	△	△			△	△	△	▲	81	アカハラ	▲	△	△	▲						△	△
26	ツミ											△	82	シロハラ	▲	○	▲	△						△	▲
27	ハイタカ	△											83	ツグミ	◎	◎	◎	◎	▲					◎	◎
28	ノスリ											△	84	ウグイス	◎	◎	◎	◎	▲	△	△		△	◎	◎
29	サンバ				△	△			△	▲	△		85	オオヨシキリ			▲	◎	◎	◎	◎	▲	△		
30	チュウヒ	△											86	センダイムシクイ			△	△				△			
31	チョウゲンボウ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	87	キクイタダキ	△	△	△	△						△	△
32	ウズラ								△	△			88	セツカ			△	○	◎	◎	◎	◎	○		
33	コジュケイ	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	89	キビタキ			△	△							
34	キジ	▲	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	90	エゾビタキ											△
35	ヒクイナ					△	△						91	ヒガラ	△	△	△	△						△	▲
36	クイナ	△	△	△	△				△	△			92	ヤマガラ	△	△	△						▲	△	△
37	バン	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	93	シジュウカラ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
38	オオバン	○	○	▲				△	▲	▲	▲	○	94	メジロ	◎	◎	○	▲	▲	▲	▲	▲	○	◎	◎
39	タマシギ	△			△	△						△	95	ホオジロ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
40	コチドリ			△	○	▲	△	△					96	ホオアカ	△										
41	イカルチドリ	▲							△	△	▲	○	97	カンラダカ	◎	◎	◎	○					△	○	
42	ムナグロ				○	◎				△			98	アオジ	◎	◎	◎	△					△	◎	
43	タゲリ	▲	▲	△						▲	△		99	オオジュリン	◎	◎	▲							▲	◎
44	キョウジョシギ				△	△							100	カワラヒワ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
45	トウネン				△								101	マヒワ	△	△	△								△
46	ウズラシギ					△				△			102	ベニマシコ	△	△	△							△	
47	ハマシギ					△				△			103	ウソ	△	△								△	△
48	エリマキシギ									△			104	シメ	◎	◎	○	◎						△	◎
49	アオアシシギ					△							105	スズメ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
50	キアシシギ					▲							106	コムクドリ							△	△	△		
51	イソシギ			△	△				△				107	ムクドリ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
52	チュウシャクシギ					△							108	カケス	◎	◎	◎	◎	△				△	◎	
53	コンヤクシギ				△								109	オナガ	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
54	タシギ	○	○	○	△				▲	▲	▲	▲	110	ハシボソカラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
55	アカエリヒレアシギ								△				111	ハシブトカラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
56	ユリカモメ	△	△	△							△		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

◎: ≥75%, ○: ≥50%, ▲: ≥25%, △: <25%

(2ページの写真—タマシギとキジ—は、編集部撮影。撮影した場所は、黒浜沼周辺ではありません)

楽しかった銚子港

島田沙織里（鴻巣市・小6）

3月11日、朝4時半に起きて、父と榎本さんと沙織里で、銚子にカモメを見に行きました。約4時間かかって着きました。とっても遠かった。

港には、沢山のカモメが飛んでいました。道路に落ちた魚を食べているウミネコ、セグロカモメ、ユリカモメが見られました。最初は全部同じに見えました。

船が通り過ぎた時に、父がミツユビカモメが飛んでいるのを指さしました。小さいカモメで、かわいい顔をしていたので、すぐにわかりました。

カナダカモメも観察しましたが、よくわかりません。アイスランドカモメは白くて、とってもきれいでした。

黒生港に、アビ君に会いに行きました。けがをしてじっと動きません。かわいそうです。エサは食べているのかな。早く元気になってください。

オオルリの城峯公園探鳥会

星野雄也（浦和市・小4）

5月13日（土）～14日（日）、1泊2日の探鳥会は、雨で始まった。参加者の中に、雨男がいるようだ。

県民の森でカケスを見た。丁度そろそろ腹がへってきた。「おにぎりが食べたいなー」と言った時、顔が青ざめたのが、Iさんだった。「リュックサックがない！」と言ってあわててもとの場所に戻って行った。

この公園では、ジュウイチの鳴き声を聞き、コルリの姿を見た。

14日は、朝3時30分に起きて、外がまだ暗いうちに、クロツグミの声のシャワーを聞いた。城峯公園に行って、電線の上で、キビタキが警戒音を立てて鳴いていた。

14日の午後は、下久保ダムと三波石峡に行って、下久保ダムは、おもにアオサギ、カワウ、カイツブリ、空にはトビがとんでいた。

三波石峡には、一度でも見たかったオオルリが、電線の上と森のしげみにいて、感激した。

もっと道を進むと、ぼくの好きなイカルがいて、なんと水たまりで水あびをしていた。イカルは群れで、9～10羽いて、ちゃんと順番待ちをして、とってもかわいかった。

川の近くでお弁当を食べている時に、細いチーという声が出て、見るとカワセミがいた。2日間の合計が43種だった。

いいないいな、まあちゃんといっしょ、

5月3日三室で考えたこと

渡辺泰子（浦和市）

午後から雷かも…という予報だが、朝はいい天気だ。5月3日三室は風はなく、暑くも寒くもなく、風薫る五月、爽やかそのものだ。

向かいの家のまあちゃんにとっては、初めてのbird watching。「学校に入ったら一緒に行こう」は昨年からの約束だ。

橋を渡ると新緑があっちからもこっちからも目に飛び込んで来る。あっ、オオヨシキリの声、長い旅をして今年も三室にやって来てくれた。どこかな？ あ、あそこだ。芝川のこちら側の大きな木にちょうど止まっている。

「口の中が茶色なんだね」

まあちゃんが望遠鏡を通して初めて見た鳥がオオヨシキリとは、幸先がいい。芝生の上のムクドリ、芝川の干潟のカルガモ、ハクセキレイ、コサギ。あ、赤い！ バンだ。

「黒と赤以外に茶色と黄色と白のところがあるよ」とまあちゃんは感動の声をあげる。バンはゆっくりゆっくり泳ぐので、その姿をずっと望遠鏡で追う。

電線にはモズ、カワラヒワも姿を見せる。「川があって、梨畑もあって、遠足みたいだね」まあちゃんはタンポポや菜の花にも御満悦。

三連休の初日、遠くの観光地へ出かけるのか、車はひきもきらず走って行くが、三室で見かけた人はジョギング中の何人かだけ。

浦和市内だってこんなに子どもが遊ぶ自然があるのに。映像ではなく実際の自然に触れることが、子どもにとってとても必要なのに。人と物、人と人との関係が稀薄な世の中になってしまったのは、あまりにも容易に映像を通して何でも見ってしまうことに起因している

と、昨今の衝撃的な事件の報道をみて感じるのは私だけだろうか。

春の白馬・大自然まるごとウォッチング 長尾道子（浦和市）

最初の目的地居谷里湿原での観察のテーマはスマレ。オオタチスマレ、桜スマレをはじめ、数種のスマレを指し示された。太平洋側と日本海側は植生が違うが、このあたりは両方が混在しているとのこと。距（きょ）や茎の色、葉の形などが、スマレの種類を判別する上で大切であることを知った。

ウスバサイシンという植物の葉の裏に、ギフチョウの卵が産みつけられていた。うす緑色を帯びた真珠のような卵であった。水芭蕉、座禅草、リュウキンカなどが群れ咲き、センダイムシクイが鳴き、キビタキ、クロツグミなどが見られた。

昼食を、と訪れた貞隣寺では、驚いたことに境内のあちこちに、墓地の中にまでカタクリが群れ咲いていた。都会では囲われて弱々しいのに、ここでは柵も囲いもなく、自由に力強く濃く咲いていた。食事上の頭上には、美しい鳴き声でノジコが登場した。

食後に歩いた木立の足元には、菊咲イチゲの白・青、二輪草、延齡草などが咲き乱れ、二葉アオイがつややかな葉をひろげていた。木立がひらけて草原となり、春リンドウが足の踏み場がないほど咲いていた。ニシキゴロモ、フモトスマレ、どれもこれも、教えていただかなければきっと見過ごしていたに違いない、マッチの頭程の小さな花であった。

やがて頭上にフィリフィリと声が飛び交い、サンショウクイが現れた。

疲れて辿り着いた「にほめの一步」では、餌場の鳥たちが迎えてくれてほっとした。

雨と雷鳴の一夜が明け、早朝5時から浅間山林道を歩き、変化に飛んだ美しいコルリの鳴き声を堪能した。

柵池高原のカモシカや落倉林道の縞蛇まで見て、人間の思いの届かないところで行われている大自然の営みの豊かさ、うねるような自然の大きな力を感じた「まるごとウォッチング」だった。

シラコラム

埼玉県外からの情報

5月30日、支部事務局に群馬県大泉町・井上茂さんから封書で情報を頂きました。

平成12年のレポートとしては群馬、栃木、茨城、埼玉県にまたがる3市5町18件の情報を頂きました。井上さんのお便りからシラコバトはずいぶん北まで進出していることが分かります。ここで、お便りの一部をご紹介します。

「現在の群馬県内のシラコバトは板倉町、館林市、明和町、千代田町に多く生息しています。板倉町、館林市方面は、渡良瀬川（川幅約500m）を越えて、栃木県佐野市でも確認できます。

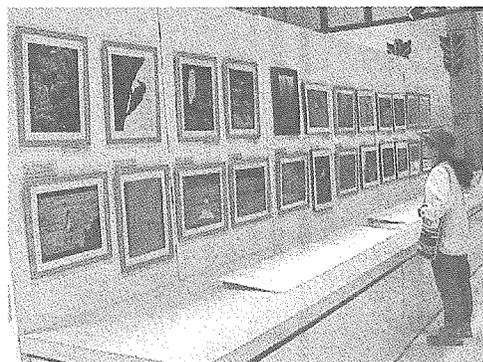
栃木県小山市、茨城県古河市まで進出確認していますが、隣の足利市は今のところ未発見です。

大泉町は過去のデータはありますが、現在は不明です。千代田町と大泉町の境までは確認しています。

～～中略～～

近年、徐々にですが千代田町周辺でシラコバトが目撃される機会が多くなりました。そこで、過去のデータを調べたところ、利根川周辺に見られるシラコバトは、利根大堰北方約2kmにある牛舎を拠点に、各地に飛来することが分かりました」

お便りでは、平成2年頃から利根大堰の北で観察されたようです。皆さんもこれらの地域に行かれた際はシラコバトを探してみてください。



民家園の展示会『見沼の野鳥』

2000年4月25日～6月4日



- 戸田市道満彩湖 ◇4月3日、セグロカモメ(脚の黄色い個体)1羽。4月10日、アリスイ1羽。4月12日、ヒメアマツバメ1羽。4月18日、コアジサシ5羽(観察者今期初認)。4月25日、チュウシャクシギ1羽、クロジ♂1羽、ササゴイ1羽、オオヨシキリ1羽。4月30日、コムドリ♀2羽。メジログアモ♂1羽。自然保全ゾーンの湖の中央部に単独でいた。メジログアモは29日に行った人の話では、まだいなかったとの事。また、翌日も観察に行ったが、すでに姿を消していた(高橋達也)。
- 戸田市荒川 ◇4月17日、戸田橋付近の河川敷でホオアカ1羽。4月26日、シロハラ1羽。4月28日、キョウジョシギ2羽、ムナグロ3羽(高橋達也)。
- 戸田市美女木 ◇5月5日、民家の屋敷林でオオルリ♂1羽(高橋達也)。
- 浦和市秋ヶ瀬 ◇4月6日、大久保農耕地B区でオオタカ若鳥と成鳥2羽が次々に追いかけていた。さらにサシバ、ノスリも出現。4月21日、治水橋北側のA区の北側グラウンドでムナグロ85羽が採餌(鈴木紀雄)。◇4月25日、子供の森でオオヨシキリ(品田正雄)。◇4月28日、大久保農耕地B区でオオヨシキリ(松村禎夫)。◇5月1日、子供の森でヒレンジャク5羽(鈴木紀雄)。
- 大宮市大谷環境広場 ◇4月20日、タシギ14羽、クサシギまたはタカブシギ3羽。4月21日、クサシギ2羽(鈴木紀雄)。
- 大宮市片柳 ◇4月27日、林内でアカハラ約20羽が飛びかう。渡去前の群れと思われる(鈴木紀雄)。

表紙の写真

コヨシキリ(スズメ目ヒタキ科ウグイス亜科ヨシキリ属)

芦原に営巣するオオヨシキリに対し、コヨシキリは草原に営巣する。声は軽やかで、白っぽい眉斑の上の黒い線が目立つ。口の中は黄色。バイカル湖より東のアジアで繁殖する。

オオヨシキリには申し訳ないけど、あの大合唱はもうたくさん。多少似ていても、コヨシキリの声が耳に届くと、うれしくなる。最近県南部でも少し増えているような気がする。浦和市の大久保農耕地とか、見沼田んぼとか。

蟹瀬武男(浦和市)

- 春日部市増富 ◇4月20日、一面の田んぼにムナグロ約100羽が散在。チュウサギ5羽、タシギ2羽。4月23日、アマサギ3羽。すでに頭がオレンジ色でトラクターの後について、餌をあさっていた(鈴木紀雄)。
- 春日部市内牧 ◇4月25日午前7時30分、「シーシーシー」と声が聞こえ、ヤブを透かすとヤブサメ1羽。黒い過眼線と白い眉斑がくっきり。尾がないみたいな体形。別の所でセンダイムシクイのさえずり。5月1日、アカハラのさえずり(鈴木紀雄)。
- 岩槻市文化公園 ◇4月30日午前8時、コムドリ♂2羽♀1羽。エゾムシクイのさえずり(藤原真理)。
- 皆野町美の山公園 ◇4月22日、クロツグミのさえずり。センダイムシクイ1羽。まだ芽吹いたばかりの枝で大きな口を開けてさかんにさえずっていた(後藤康夫・喜久子)。
- 嵐山町 ◇4月22日、菅谷館～都幾川間でオシドリ♂♀各1羽、イワツバメ、オオタカ2羽、イカル、シメ。槻川橋付近上空でアマツバメとヒメアマツバメ合わせて40～50羽が飛びかっていた。都幾川の土手でツグミ20羽(後藤康夫・喜久子)。
- 坂戸市城山 ◇4月25日、センダイムシクイ1羽、桜並木の桜の枝でピンズイ1羽。5月1日、新緑の沢の木立で美声が響くオオルリ♂1羽。青虫を捕食していた。クロジ♀1羽。5月4日、城山荘裏の雑木林でクロツグミ♂1羽。キビタキ♂2ヶ所で各1羽(増尾隆・節子)。
- 坂戸市高麗川 ◇4月27日、城山橋上流でヤマセミ♂♀各1羽(北村隆、増尾隆)。
- 寄居町鉢形城址周辺 ◇5月3日、クロジ♂1羽♀1羽、イカル、シメ、エナガ、ヤマガラ(後藤康夫・喜久子)。

行事あんない



(何森 要)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

上尾市・八枝神社探鳥会 (夕方)

期日：7月1日(土)

詳細は6月号をご覧ください。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月2日(日)

詳細は6月号をご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居9：03発に乗車。

担当：島田、森本、中島(章)、石井(博)、倉崎、松本、中里、高橋、後藤

見どころ：出現鳥の少ない夏期は、こだわりを持って観察をしてみませんか。ゴイスギの目の色は橙赤色、ササゴイは淡黄色。足は何色？ などなど。サギの仲間それぞれの違いをはっきりさせてみるのも楽しみのひとつです。コアジサシ、オオヨシキリも暑さに負けずに皆さんのお出かけをお待ちしています。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：7月16日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、倉林、渡辺(周)、笠原、若林、兼元、森、清水

見どころ：長い梅雨が明け、見沼たんぼに真夏の太陽が照り映えているでしょうか。それとも梅雨の終りの大雨で芝川が増水して、たんぼが遊水機能を発揮しているでしょうか。自然の過酷さを知る季節でもありますが、やっぱり探鳥会に出かけなくては気が済まない。暑さ対策を十分にしてお出かけください。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月16日(日)

集合：午前9時40分、森林公園南入り口前。

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9：17発バスにて、終点下車。

費用：入園料400円(子供80円)

担当：佐久間、岡安、藤掛、青山、喜多、後藤、林(久)

見どころ：梅雨明け前のむし暑い最中ですが緑陰の多い公園では、シジュウカラ・ホオジロが元気。ホトトギス、イカルの声も聞けて、池ではカイツブリの雛も見られるかも知れません。国蝶のオムラサキやヤマユリも見られるかな？

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月23日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越 8：42発、所沢 8：36発に乗車。

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）

見どころ：鳥の少ない夏でもみどころは色々あるはず。鳥たちの暑い時期の過ごし方。今年巣立ちをした若鳥の成鳥との違いや特徴。水辺の鳥たちの餌の採り方などなど。日陰が少ないところを歩きますので帽子、飲み物などの暑さ対策をお忘れなく。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月29日（土）1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：梅雨が明けて夏本番。涼しい山々に出かけて、朝霧の中に鳥の声を聞く、最高の気分ですね。都会の喧騒を忘れほっとします。「私も行きたーい」、「しらこぼと」も連れて行ってください。今日はお供を連れ出す絶好の袋づめの日。よろしくお願ひします。

北本市・石戸宿定例探鳥会

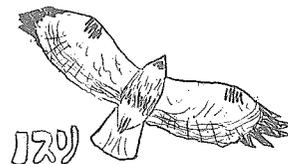
期日：8月6日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前より北里メディカルセンター病院行きバス 8：40発にて、「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、高（文）、立岩、永野（安）、永野（京）、高（剋）、山田、今井、山野

見どころ：鳥たちは抱卵、子育てあるいは換羽中で、見えにくい時期です。暑いさ中にゴミ拾いで汗をかくという、逆転の発想の探鳥会です。ゴミ袋などは用意いたします。手袋を忘れずに持参ください。帽子、水筒なども忘れずに。



（五十嵐貴大）

県内野鳥記録の追加情報

日本野鳥の会埼玉県支部野鳥記録委員会

●メジロガモ

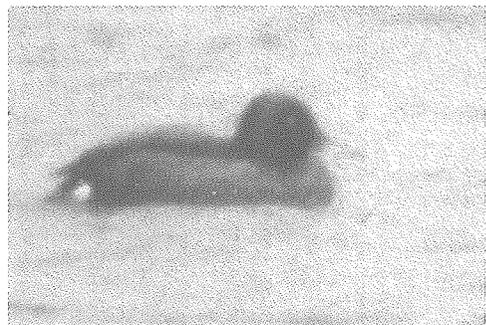
分類 ガンカモ目ガンカモ科ハジロ属

学名 *Aythya nyroca*

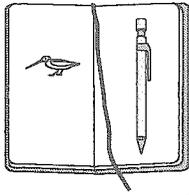
英名 Ferruginous Duck または Ferruginous White-eye または White-eye Pochard

本年4月30日（日）午前10時30分～午後1時30分、戸田市彩湖の幸魂大橋下流の鉄塔付近で潜水採餌などを行っている1羽を、戸田市在住の五十嵐敏行氏が写真撮影し、ほかに同市の高橋達也会員が観察を報告した。

当委員会は五十嵐氏の撮影した写真のプリントをデジタル処理で拡大（右上写真）して検討した結果、メジロガモとして記録することにした。県内初。県内鳥類目録としては304番目の記録。



ヨーロッパから中央アジアにかけて繁殖し、アフリカ北東部から中東、インド、ビルマなどで越冬する。日本は渡りの方向からはずれているので、まれな迷鳥として飛来するのみだが、ヨシや草のはえた内陸の淡水池を好むと言われ、今期の冬は、千葉県柏市内の公園内の池に1羽が滞在したことが知られている。



行事報告

2月27日(日) 岩槻市 岩槻文化公園

参加：93人 天気：晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ
カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハ
シビロガモ オオタカ ハヤブサ チョウゲンボ
ウ コジュケイ キジ イカルチドリ イソシギ
セグロカモメ キジバト アリスイ アカゲラ
コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバ
リ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ
ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオ
ジロ カシラダカ アオジ オオジュリン アト
リ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケ
ス ハシボソガラス ハシブトガラス (45種) 好
天氣に恵まれ、出現鳥も多く、この場所での初認
のアトリやオオジュリン等も見られた。更に数名
だがアリスイまで確認。大勢のため、一部の人の
確認にとどまるものが多かったが、すばらしい探
鳥会だった。今回は一般の方32人の参加があり、
大変うれしかった。(中村榮男)

2月27日(日) 富士見市 柳瀬川

参加：51人 天気：晴

カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ
コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ
ホシハジロ キンクロハジロ キジ イカルチド
リ タゲリ イソシギ タシギ ユリカモメ キ
ジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキ
レイ セグロセキレイ タヒバリ モズ ジョウ
ビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオ
ジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマ
シロ シメ スズメ ムクドリ ヒヨドリ ハシ
ボソガラス ハシブトガラス (40種) 雨も上がり、
天氣に恵まれた。最初にスコープに飛び込んだの
は、タゲリ。春光に冴える冠羽もはっきりと見ら
れたので、旅立ちを見送る気持ちになれた。中洲
にタシギが8羽、いや9羽と数える声は賑やか。
すべり込みのダイサギを加えて、タンポポが時期
を待つ土手を背に、解散。(高草木泰行)

3月5日(日) 寄居町 玉淀河原

参加：63人 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ オオ
タカ トビ コジュケイ イカルチドリ イソシ
ギ キジバト ヤマセミ カワセミ コゲラ キ
セキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒ
バリ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ ウグ
イス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ
アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) この探
鳥会への初参加者が50名近くもいて、皆さん「ヤ
マセミ、ヤマセミ」と期待が大きいようだ。玉淀
河原で10分近く待っても出ない。リーダー全員が
あせり、あきらめかけた頃「あ！ヤマセミ」の声
に全員が元気づく。雄雌2羽が仲良くダイビング。
しばらく姿を見せてくれた。「もう帰ろうよ」の
声に、リーダーは「もう少し頑張ってください」
と励まし、ゴールを目指した。(小池一男)

3月5日(日) 大宮市 染谷見沼自然公園

参加：66人 天気：曇

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ
オナガガモ ホシハジロ オオタカ バン タシ
ギ キジバト アリスイ コゲラ ヒバリ キセ
キレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバ
リ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ
ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシ
ラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ
カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34
種) 開始前よりオオタカが出現し、幸先が良いと
思われたが、開始後は強風のためか予想種が出現
せず不安だった。しかし、後半は冬鳥たちも徐々
に出現し始め、見沼自然公園では思いもかけずア
リスイが出現し、大いに場が盛り上がった。参加
者も66人と過去最高であった。(工藤洋三)

3月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加：29人 天気：晴

カワウ オオタカ ノスリ キジバト アカゲラ
 コゲラ ヒバリ イワツバメ ハクセキレイ セ
 グロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
 シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メ
 ジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ
 カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス
 ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 大麻生
 周辺は、鉄塔、用水、ゴルフ場整備の工事と、下
 草が刈られたり、焼かれたりで、環境は非常に悪
 かったが、レンジャクをと、わずかな期待をかけ
 て野鳥の森へのコースを取った。残念ながらレン
 ジャクは声も姿もなかったが、つがいと思われる
 オオタカが森すれすれの飛翔を、まだいてくれた
 アトリが水浴びを見せてくれた。(和田康男)

3月12日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加: 18人 天気: 小雨

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
 ギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オ
 ナガガモ キンクロハジロ チョウゲンボウ イ
 カルチドリ タゲリ イソシギ タシギ ユリカ
 モメ セグロカモメ シラコバト キジバト カ
 ワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ
 タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグ
 ミ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ
 ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37
 種) 小雨が降り止まなかった。案内にシラコバト
 を見ようと書いたため、遠方からの参加者もあり、
 探鳥会を決行。雨が幸いして公園内は貸し切りで、
 普段は姿を現さない小鳥たちも間近で観察できた。
 目的のシラコバトは松伏側で14羽、吉川側で約40
 羽確認でき、一度に30羽の出現には参加者から歓
 声?が上がった。探鳥会後は、松伏中央公民館で
 見つけ隊以外の参加者も含め、シラコバト調査に
 ついてのミーティングを行った。(橋口長和)

3月19日(日) 長瀬町 宝登山

参加: 36人 天気: 晴

トビ キジバト アオゲラ コゲラ イワツバメ
 セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カヤクグリ
 ジョウビタキ ツグミ シロハラ ウグイス エ
 ナガ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ
 アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス
 ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 今回は
 裏道ルートから宝登山山頂まで歩いた。スタート

直後にイワツバメを確認。ハシブトガラスも巣作
 りに忙しそう。道端にはニオイタチツボスミレも
 咲き、遠くでケラ類のドラミングが聞こえた。最
 後の急登もヒガラのさえざりに励まされゴール。
 山頂は紅白の梅が満開だった。(小池一男)

3月19日(日) 浦和市 三室地区

参加: 62人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
 ギ カルガモ コガモ ホシハジロ ヒドリガモ
 オオタカ ハイタカ チョウゲンボウ コジュケ
 イ キジバン コチドリ イソシギ タシギ
 クイナ ユリカモメ セグロカモメ キジバト
 コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ
 ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグ
 ミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ
 カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ
 シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ
 ブトガラス (44種) 雨上がりの快晴であった。開
 始の挨拶の途中、博物館の上空をハイタカが飛ぶ。
 挨拶のときにこんないいことがあるなんて! 参加
 者は幸せ者。ユリカモメやセグロカモメが何回も
 飛行してくれ、カモたちも4種であったが姿を見
 せた。寒い3月であったが、楽しい三室の探鳥会
 がみんなに暖かい思い出を作ってくれた。例会最
 高タイの出現鳥数42種でうれしい。(楠見邦博)

3月19日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 42人 天気: 曇

カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ マガ
 モ カルガモ トビ オオタカ ノスリ チョウ
 ゲンボウ コジュケイ キジバン イソシギ
 キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ ハク
 セキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ
 モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイ
 ス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ
 ホオジロ アオジ カワラヒワ イカル シメ
 スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガ
 ラス ハシブトガラス (42種) 新聞の探鳥会案内
 のためか、一般の方が11名と多く、石井(幸)リー
 ダーと大坂幹事に対応をお願いした。東京から参
 加の大谷さんも校庭の桜の木に群れていたイカル
 を見てとても感激していた。天覧山で観察してい
 た大塚さんよりサシバが見られたとの情報。残念
 ながらヤマセミは見られなかった。(藤掛保司)

連絡中

●10月号から『野鳥』誌と同封発送

『野鳥』は、8月末に発送される9月号は休刊し、9月末に9月10月合併号として発送される見通しです。4月号でお知らせした同封発送をその前から始めると、始めて間もなく『野鳥』の休刊があって混乱の元ですので、その後から始める事にしました。

つまり『しらこぼと』10月号編集のための9月から、編集会議を新しい日程にして、9月中に皆様のお手元に届く10月号から、『野鳥』と『しらこぼと』が、『野鳥』の封筒と一緒に入って行くという予定です。

なお、これは『野鳥』と『しらこぼと』の両方が届く個人特別会員と総会会員だけで、『しらこぼと』のみが届く支部型会員は、従来通りの封筒が届きます。袋づめの会も、通数は減りますが、今までと同じです。

●事務局が少し快適に

自然保護団体として、できるだけエネルギーの消費は少なくしたいのですが、6畳2間の支部事務局に、例えば真夏の袋づめの会で20人も入ると、もう完全な蒸し風呂状態。なんとかして！ という悲鳴が上がっていました。省エネタイプの新しいエアコンを設置しました。安心してお出かけください。

●大久保農耕地でヨシゴイの調査中

この夏、浦和市の大久保農耕地、通称B地区で、立教大学理学部生物研究室上田恵助教教授（埼玉県支部会員）らが、ヨシゴイの調査を実施しています。その一環として個体識別が必要で、法律的許可手続を経て、6月6日にはカスミ網によるバンディング作業をしました。

その作業を見た会員から、野鳥たちに対する悪影響を心配する声が支部事務局に届きました。

支部事務局が上田助教教授に連絡をとって聞いたところでは、「野鳥が好きで一人として、また、研究者としても研究対象がいなくなってしまうのは困るわけですから、当然十分な注意

をして調査をしています。今回のような規模のバンディングは、もう一度位必要かもしれませんが、そう何度も繰り返すものではありません。5年前にも同様の調査をしましたが、そのために個体数が減ったことはなく、逆に増えた記録が残っています。こういう調査の積み重ねが、湿地など自然環境の保護には必要と考えます。ご理解をお願いします」との事でした。

●久し振りのごめんなさいコーナー

6月号P7表紙の写真の撮影日が「4月27日」は「17日」、P9渡良瀬遊水地の案内で「片倉」は「板倉」の誤りでした。

●7月の事務局 土曜と日曜の予定

2日（日）シラコバト見つけ隊会合。
15日（土）編集会議、研究部会議。
16日（日）役員会議。
22日（土）校正作業。
29日（土）袋づめの会。

●会員数は

6月1日現在2,963人です。

活動報告

5月13日（土）事務局整理（渡辺泰子）。
5月20日（土）6月号校正（海老原美夫、大坂幸男）。
5月21日（日）役員会議（司会：大坂幸男、次回関東ブロック協議会・公民館探鳥会指導依頼・総会準備・その他）。
5月29日（月）6月号発送（藤掛保司）。
6月4日（日）シラコバト見つけ隊、分布パネル作成。

編集後記

今年も近所にカッコウ到来。去年は6～7月、ほとんど毎日声が聞けた。オナガが繁殖しているから、もしかして托卵をタ克蘭でいるのでは？と言って、夫に寒がられた。でもある探鳥会で、他の人が同じギャグで大ウケしていた。この差は何なの…？（みどり）

『しらこぼと』2000年7月号（第195号） 定価100円（会員の購読料は会費に含まれます）
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
インターネットホームページ <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
(財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社（本誌掲載記事はすべて上記ホームページに転載されます。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします） 再生紙使用